

助成年度：平成 18 年度

[所属] 国立大学法人九州大学 人間環境学研究
[役職] 教授
[氏名] 堀 賀貴 (他計 2 名)

[課題]

古代ローマ都市、ポンペイ・オスティアにおける 水循環システムに関する都市環境史的研究

[内容]

2006, 7 年度にわたり、ポンペイ、およびオスティア、およびローマにおいて、現地調査、文献調査を行った。

ポンペイにおいては、都市の水循環の骨組みとしての、公共噴水および水道塔、また都市内の循環システムの外殻を決定づけている城壁、門について、精密な測量を行った。まずは、都市全域の城壁、道路を三次元的に実測し、それを CAD 上の立体空間に位置づけた。これは、既存の GPS データと連結することにより、経緯度の上での精密な位置が決定できたので、全地球上の絶対位置としてデータ化されている。こうした 3 次元実測データをもとに、水循環システムの考察を進めた。

オスティア・アンティカにおける水資源活用報告では、下水関係に論点を集中する。オスティアには未解決の謎が山積とあってよい。本報告ではその予備的表面調査という位置づけで、得られた諸知見に基づき以下の論点に限り私見を述べる。

(1) 古代ローマ人の日常生活を再現しようとする際には、一階部分だけでなく、上階の知見も含めて考察すべきである。

(2) オスティアにおいて顕著な傾向として、公共浴場、公共泉水付近に常設の固定便座・常時流水型トイレが多く見受けられる。

本報告にとって決定的な意味をもち示唆的なのは、上階トイレの存在である。また、「Tipo の小住宅」のトイレ溝の直下には大規模な下水構造の設置が予想される。最後に、建物外壁に設置された排水管による上階トイレの可能性について触れる。